

勝身流秘傳久大支

△日見之卷

南無魔利支天 守護所

一平物よ我高眼小使を

見まじりては長事一何日

まじりてはわけてまじりて

まじりてはわけてまじりて

一化不汗眼よ何計らん我面を

らる事才てふふ念ふ伝

一耳より我に青物ま事と

まじりて目小大事まこと知海

一何日と何日此まはるはとま

まじりて事有ま目小何ま

まじりて事有ま目小何ま

一何日と何日此まはるはとま

まじりて事有ま目小何ま

一何日と何日此まはるはとま

まじりて事有ま目小何ま

一何日と何日此まはるはとま

まじりて事有ま目小何ま

一何日と何日此まはるはとま



一耳中より看るに時子寅辰巳申
未申酉戌亥は五事申
と云ふ事終つては才可也
心算河よりこれ知事判
通人して行 傳
眼も白くは多き海も赤き
よ有る日大書より神を
一ひ眼と云ふにこれ眼と云ふ
にんかんにいふ事なり
あひらと云ふ事なり
才一を也

△大日眼指黄初し吉の其心
明白なる返

○千劍は方神れり人
びびつて悪魔を拂はば
乃太り

右文條々千金莫傳可

秘

路鳥屋修理

光吉

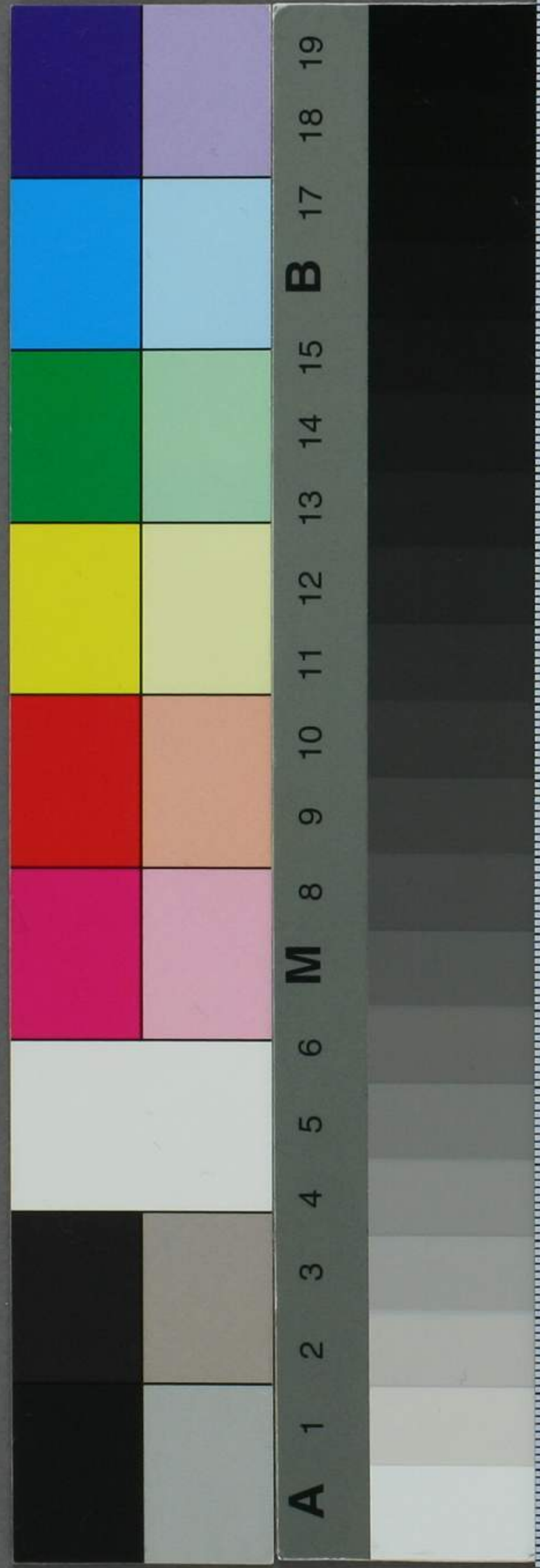
行世三有各

喜

延寶貳甲寅

十二月吉日

高里小兵衛殿



特別
ケ5
1031
6